

教育目標		幅広い知識と教養、正しい判断力と自律的な生活態度を身に付けさせるとともに、豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的で平和な社会の創造と発展に貢献できる人材の育成を目指す。				総合評価
運営方針		「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導				
○昨年度の成果と課題		本年度重点目標				B
家庭学習の重要性を訴えているが、生徒の認識としては不十分。そのため、課題を積極的に与えているが、課題についての教科内、教科間の連携がスムーズにできず、時には生徒の負担になりすぎることもあった。量的、質的な改善のため、教員間での日常的な連携が大切。		確かな学力の養成		第1学年から予習、復習を習慣化させ、学力の定着を図るとともに、指導者としての授業力を校内研究授業等を通して向上させる。		
		早期からの進路指導の充実		第1学年段階から進路に関する情報提供を充実させ、自己を客観的に見つめる中から将来の進路を考えさせる。		
		基本的生活習慣の確立と自己管理能力の育成		遅刻の削減。校内外の生活全般にわたってルールやマナーを身に付けさせる。自らの健康や安全を確保する能力と自立心を養う。		
		学習と部活動のバランスの取れた両立		教科担当者、部活動顧問が常に連携し、効率的な部活動となるための工夫を図るとともに、学習においては集中力を養い、目標を貫徹する強い意志力を育てる。		
		豊かな人間性の育成		学校行事や生徒会活動等の精選と充実を検討する。創立120周年記念事業を契機に創意工夫する意欲と態度を育てる。		
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	年度末(3月)			
			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
育友会	育友会活動の活性化を図る。	文書やホームページ、メール連絡網の活用、育友会総会後の行事の充実により総会参加者を増やし、満足度をたかめる。 内容や行き先を精選し、育友会主催の研修会(講演会・社会見学)への参加者を増やし、満足度をたかめる。	A	ホームページ等の使用方法を確立していきたい。	育友会の担当の方と使用方法を4月当初に確認する。	学校のホームページの育友会関係の情報の更新が遅かった。時宜を得た情報の発信に努めてもらいたい。 育友会活動について良い評価が出ているが、会員の参加意識をさらに高める取組みを育友会と学校でさらに協議していきたい。
			A	大学見学研修会の参加者が非常に多く、バスを追加したほどである。社会見学・大学見学ともに参加者の満足度は非常に高かった。	想定以上の人数の時の対応を検討しておく。	
授業の実	平素の授業の充実と授業研究週間・公開授業の活性化。	授業研究の活性化を図るため、授業研究週間等を活用して授業方法を研究する。	A	今年度の授業を振り返って、昨年度より授業研修ができたか、という質問に対して、「できている」「どちらかといえばできている」をあわせると86%、「できていない」「どちらかといえばできていない」をあわせると14%であった。	授業研究は教員としての力量を高める上で重要なポイントである。授業研修が「できている」と回答した教員は22%にとどまっており、本年度以上に来年度も授業研究が活発になるよう授業研究の環境整備に努めたい。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
進路指導	キャリア教育を推進する。	キャリア教育「Professionalsに学ぶ」において働いている人の話を直接聞く。 「郡高キャリア通信」の中で、進路選択、大学情報や入試情報、大学での研究内容や卒業後の進路等、将来の自己実現に繋がる情報を発信し、キャリア教育の充実役に役立つ。	A	「Professionalsに学ぶ」の感想が良かった以上の割合が高くA評価であった。「郡高キャリア通信」は6月以降月1回のペースで発刊し、キャリアサポーターにより進路選択やキャリアデザイン等キャリア教育にかかわる多くの情報を発信し、生徒の意識の向上を図ることができた。大学や院卒業後の社会での自己実現と高校での進路選択を有機的かつ主体的につなげていくことが課題である。	生徒の進路希望や進路状況に対応した情報の発信を継続、キャリア教育をより一層推進する。また卒業生とのネットワークを更に充実させ、キャリア教育の充実に役立てる。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
	進路意識の向上を図る。	進路HR、進路だより、進路集会等により自己の進路目標の実現に向け、早期に学習を開始させる。 第1学年より進路希望調査を実施し、進路目標を明確にし、センター試験・2次試験に向けての教科学習を早期に開始させ、最後まで第1志望を堅持させる。	B A	進路HR、進路だより、進路集会等により「進路目標の実現に向けての学習」を意識させることができた。高い進路目標を持ちながら、その実現に向けた学習の本格的な開始時期は1・2年とも先延ばしする傾向がある。 センター試験7科目受験率はセンター受験生徒を母集団として73.2%であった。国公立大学志望生徒が7科目型でセンター試験を迎えられるよう、1・2年次における基礎力、特に数学、英語の基礎学力充実が課題である。	9月の1年類型選択や2年の科目選択の時期を起点とし、進路実現に向けた学習を開始・継続させる。また模試やセンターチャレンジにより、より一層進路実現に向け意識を向上させ学習により早期から取り組ませる。 1・2年次において授業への真摯な取り組みにより学習内容の理解・深化をはかる。家庭での予習復習の習慣化により、基礎力の徹底を図る。	
	学力の向上を図る。	模試成績を分析し、進路対策委員会と教科が連携して学力向上の具体的方策を検討し、その実行により進路目標の実現を図る。	B	校外模試全国偏差値の推移は、1年が-0.3、2年は-1.5、3年はマーク+4.5、記述+3.2で、1年B、2年B、3年A評価である。1・2年次における全国偏差値の低下を抑えることが課題である。	対策委員会と教科・学年が連携し課題を明確にし、対策を着実に実行に移し継続的に指導する。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	年度末(3月)			
			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導	生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をはかり、充実した学校生活を送らせる。	毎日の登校指導や授業、学校行事等を通じて挨拶の励行を促す。	A	能動的・受動的に挨拶をする生徒は99%である。毎朝の登校指導ではそれほど高い割合とは感じられないし、挨拶の元気さも不足している。	挨拶は人間関係構築の入口であることを強くアピールし、生徒の社会性向上を促したい。生活委員に挨拶が返ってくる数を数えさせる等も視野に入れたい。	郡高生は普段から礼儀正しく、服装もきちりしている。電車の中でもマナーはよく、周りの乗客に安心感を与えている。 今後も、公共マナーをはじめ規範意識の向上にむけた指導の充実につとめてほしい。
		月2回以上遅刻した生徒には集会に参加させ、自ら時間を守るという生活習慣を徹底させる。	A	のべ人数で第1学年4名、第2学年11名、第3学年26名、1か月あたりの学年平均数は2名未満となる。	5分前登校の徹底を強く呼びかけ、皆で協力して貴重な時間を生み出すことの大切さを訴えたい。	
		各学期2回と月1回頭髪・服装点検を実施し、学年主任・担任・副担任と連携を取りながら継続的に指導する。	B	のべ人数で第1学年2名、第2学年4名、第3学年3名、全校生徒に対する比率は0.7%である。	登校指導のほか、SHRや授業で、全先生方が統一した指導をして頂けるようにしたい。	
		生徒の生活意欲を喚起するため、「今月の言葉」を掲示板及び教室に掲示する。内容をさらに精選し、自らのよりよい生き方・在り方を考えさせる機会とする。	C	興味を持つとの回答は45%にとどまる。各学年の先生から出して頂く取り組みは2年目になり、生徒の感性に訴えるものを提供している自負はある。	担任の先生に加え、生活委員等の生徒にもクラスで展開させることを取り入れたい。生徒の感想を求める何らかの機会を設定したい。	
特別活動	個々の生徒がそれぞれのシーンにおいて、その立場および責任を理解し、自主的・自発的な活動のもとに創造的な能力が発揮される生徒会活動になるよう支援する。また、郡高生としての帰属意識・愛校心を高めるとともに、地域との連携・調和を図る。	各学校行事においてそれぞれの生徒が各々の立場で輝けるよう、生徒会役員を中心に十分な計画・準備を行い、その都度チェック・反省を繰り返しながらより良きものとなるよう指導する。特に文化祭は、文字通り「生徒の文化」の結晶となるよう文化祭実行委員会を通し、全校生徒がアイデアを出し合いながらオリジナリティー溢れる行事となるよう支援する。	A	生徒実態調査において、各学年とも90%以上の生徒が創意性を発揮して努力したと回答している。昨年に引き続き今年度も新しい企画にも挑戦し、結果を残すことができた。3年生や文化祭実行委員の中で充実感や達成感を感じているものが多くを占めている。2年生や1年生でもリーダーシップを発揮し、生徒会活動を盛り上げる生徒がいた。しかし、すべてにおいてまだまだ工夫や改善すべき事が多くあり、来年度に向けてさらに早い段階での取り組みが必要である。	来年度に向けて、年度内に文化祭に関する勉強会を開き、生徒会の中で各部門のリーダーを育成する。また、文化祭実行委員会の取り組みを生徒にしっかりと浸透させるよう努力する。	文武両道で頑張っている郡高生の姿は、従前どおり地元中学生のあこがれである一方、文武の間で悩んでいる生徒が多いと感じられるのが現状である。 部活動においては、時間の有効利用についての生徒の意識を高めるなど、効率よく活動・練習させる指導を工夫してほしい。
		生徒会報を年間6回以上発行を目標とするが、発行回数よりもその内容を充実したものにするため指導していく。会報を通して生徒会執行部および各課委員会の方針、活動内容を全校生徒に伝え、より開かれた生徒会活動を目指す。	A	生徒会報に興味を示し、目を通してという生徒が昨年と比較して約6%（一昨年と比較すると約16%）上昇し、担当の生徒会役員が様々な企画を出し合いながら、親しみやすく読みやすい会報を作成していることと思われる。今後も一層、紙面作りにも工夫を加え、さらにその内容を充実していきたい。	より生徒に身近な校内でのトピックスや学校行事など、郡高生の声をより反映させたい。	
部活動	各部活動において、心身ともに健全な生徒の育成を目指しながら、文武両道の伝統的な校風の維持発展に努める。また、活動場所や部室等の環境整備により、体力および競技力の向上が可能となるよう支援する。	「文武両道」とは勉学と部活動が両輪の輪となるべきものである。部活動偏重になりがちな1・2年生に対し、勉学と両立させながら技量や成果を高め、達成感、自信をもたせる。その過程で強い精神力や忍耐力を培い、将来の進路実現につなげる。	A	生徒実態調査において90%近くの生徒が部活動を通して自らの精神・体力が向上したと回答している。特に3年生で高い数値を示しており、自己肯定感の高さが窺える。また、所属する部活動に対する満足度も90%を超えており、部活運営もよい状態にあると思われる。しかし、クラブ加入率9割の本校では、部室やその他の環境整備という点で多くの解決困難な問題がある。	今後も精神・体力を向上させ、全人的に成長していけるような指導を目指したい。活動環境については、物理的・金銭的な問題があるので全面解決は不可能であるが、少しでも生徒がよりよく活動できるよう工夫したい。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	年度末(3月)				
			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
人権教育	人権HR活動を充実させる。	正しい判断力と自律的な生活態度を身に付けるため、今日の社会や生徒ニーズに応じた教材を導入し、前年度指導案に工夫を加え、指導案を充実させる。事後検証を行い、来年度計画に生かす。	A	1年生は障害者差別、2年生は差別意識、3年生は就職差別、ジェンダーとテーマを絞って取り組みができた。ただ、限られた時間の中での取り組みであり、担当の先生方には苦勞頂いた。	研修のための時間確保の為、早期から研修計画の立案、指導案作りの参考資料の収集に努める。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。	
	推進体制の充実を図り、教職員の実践力を高める。	夏期研修会等、各種研修会への参加を促す。	B	出張旅費等の問題もあり、校外での研修会への参加については、限界かと考える。校内での研修会の充実を努めたい。	次年度は、項目内容の変更を検討する。		
		教職員の実践に即した職員研修を計画し、実施する。	A	A B	研修会後のアンケートでは、大変参考になったと答えて頂いた先生が、52%あり、概ねを含めると100%となった。		我々が行わなければならない研修の企画に努めていく。
		人権教育関係の回覧を充実させ、教職員自らが人権問題について認識を深める。	B		目次等を見て、必要な事項だけ読んでいるを含めると93%の先生方が概ね目を通して頂けると考えられる。今後、全体を見て頂けるよう工夫したい。		表紙に、興味を持って頂けるように、要点を整理したりと工夫したい。
	生徒参加の啓発活動を充実させる。	人権教育部だよりを作成し、掲示及びHPへの掲載を行う。	B	B	4回発行できた。2学期に2回発行できれば良かったのかと反省している。		発行予定日を事前に決めて発行に努める。
豊かな人間性や社会連帯の精神を身に付けるため、広く人権・ボランティア活動全般に取組む生徒を集め、各種活動・研修会等への参加を促す。		C	C	本年度スタートしてから、ボランティア活動を生徒会で担当いただいた。そのため、解放研の活動のみとなったが、部員がいないため文化祭での展示のみとなった。地球のステージなどを通じてボランティアの大切さは啓発できた。	次年度、項目内容の変更を検討する。		
教育相談	生徒が個々の力を十分に発揮するために、柔軟で多様な考え方や感じ方ができるよう支援する。	生徒用「相談室だより」を年3回発行する。	A	A	2学期までに2回発行した。3学期にも1回発行する。3学期には本校スクールカウンセラーにコラム原稿を依頼し、その時々生徒の状況に即した内容を盛り込んだ。	紙面を通して、予防的・開発的な関わりができるよう、生徒の状況を的確に把握する。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
	教員の教育相談に関する知識と理解を深める。	生徒理解のための参考となる情報として、教師用「相談室だより」を毎月発行する。	A		2学期までに毎月発行した。1～3月も現状のペースを維持して発行する。	有用な紙面となるよう、引き続き種々の情報にアンテナを張る。	
保健	生涯を通じて健康な生活が実践できる力を育成する。	身体測定、健康診断により健康状態の把握と改善に努め、「郡高保健通信」を活用しながら怪我、疾病予防等健康への関心を高める。	B	B	アンケートの質問内容と評価指標が合っていないため、「治療勧告に基づいて受診した」と「治療中」を足した割合(69%)で評価し、Bとする。	アンケートの質問内容の改訂が必要。また、保健通信以外での保健教育の方法を検討中。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
		学校保健委員会を開催し、生徒の健康、安全等について情報交換する中でよりよい環境をはかる。	A		改善を要する事項はなかったため、Aとする。	今回、改善事項は出なかったが、意見交換のしやすい委員会の運営を目指す。	
体育	たくましい体力、活動の充実を図る。	体育に関する行事「新体力テスト・体育大会」を実施し、体力の向上および活動の充実を目指す。	C	体育行事において、実力を発揮しましたかについて、「十分に発揮した」と「発揮した」の合計割合が59.4%となり、評価は「C」となる。体力に関して多くの生徒は意識しているが、うまく応用させながら活動していない状況が見受けられる。	個々の体力に応じて、活動する機会や方法を具体的に示す。		

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	年度末(3月)			
			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
読書や文化体験活動に関する指導	生徒の読書量増加を目指す。	読書HRなどを通じて、読書の楽しさを認識させる。	A B	読書HRについてのアンケートから90%以上の生徒がよかったと答えている。また新たな試みのブックトークを実施したクラスでは、両方の読書タイムがほしいと前向きな回答も多くみられた。もっと読書HRがほしいなどの記述回答も多くみられた。	本年度初めて実施したブックトークを取り入れたHRの実践方法に検討を重ね、一斉にブックトークを用いた読書HRが実施できるようにマニュアルの検討を重ねたい。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
	積極的な啓発活動(共慶、掲示特設コーナー)を実施し、生徒の読書のきっかけとする。	共慶や啓発活動、掲示を活発化し、読書への関心を高める。		B	内容に興味関心を持ってたという回答は50%を超過すが、掲示や共慶そのものへの興味関心は32%前後である。配布時期、方法について検討が必要だと思われる。	
学校環境	生徒による学習環境および施設設備の自主的な整備と美化	普通清掃や大掃除を通して身の回りの環境を自ら整える力を身につけさせる。	A B	清掃活動にすすんで取り組んだ、責任を果たしたと答えた生徒は全体で96.3%。多くの生徒が清掃活動に対して、責任を果たそうとする姿勢を持っている。	清掃用具を充実させ、清掃を通じて身の回りを整えることによる心地よさや達成感を感じさせたい。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
	マナーの向上	校舎内での公私の区別をつけさせるため、美化委員によりロッカーの上や靴箱の上に私物を放置しない呼びかけをする。定期的に点検を実施する。		A B	大掃除の後提出の点検表(5回提出)を集計した結果、教室のロッカーの上に私物がないクラスの割合は82.9%。	
		美化委員が作成したポスターを掲示し、ゴミの減量・分別、トイレ使用のマナーの向上などの習慣を身につけさせる。	B	ゴミの分別を守っている(ほぼ守っているも含めて)と答えた生徒は71.2%。	美化委員による啓発活動など、多くの場において、分別の意識づけを行う。	
	安全管理	避難訓練実施前に避難経路および災害時の行動について指導を徹底させる。	C	予定通り避難訓練を実施できたが、約半数の生徒が避難経路をしっかりと理解できていない。放送のみの訓練に終わった昨年度から理解している生徒が10%増えるに止まった。	避難経路の確認や、防災についての意識を高める機会を多く設ける。	
広報活動の推進	学校ホームページによる情報公開を進める。	本校Webサイトの更新手続きやページ作成について職員に周知し、スムーズな情報公開に努める。	B	本校Webサイトを見たことのある保護者は62.8%、生徒64.3%であり、ある程度認知されていると考えられる。	従前どおり、「部活動」や「学校行事」に関するコンテンツの充実とこまめな更新、生徒や保護者がどのようなコンテンツを欲しているかの把握、公開中のコンテンツの周知につとめるとともに、スマートフォンやタブレット端末で利用しやすいホームページについて研究する。	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。
学校評価の充実	授業アンケートなどの活用を図る。	授業アンケートが教員の授業点検にさらに役立つように、趣旨を教員と生徒に周知するとともに設問項目や実施形態を研究し検討を加える。	B A	教員アンケートで「授業アンケートが自らの授業の点検に役に立ったか」の問いに対して「そう思う」「どちらかというとそう思う」という回答数が80.3%で(H24は75.8%、H23は71.6%、H22は74.2%、H21は65.1%)、授業アンケート実施の方向性は当面現状で良いと思われる。 問題点として、①複数教員で担当している講座の集計結果が担当教員にとって有効とはいえない点、②すべての科目についてアンケートを行うため、質問項目を具体化しにくい点が挙げられる。	本年度、授業アンケートの実施回数を年1回(6月)に変更したが、授業アンケートの実施方法については、現状をふまえた上でどういう形が最善なのか、随時議論し、改善していく必要がある。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	年度末(3月)			
			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
1 学 年	学習指導 授業以外で1日平均2時間以上の学習時間を確保させる。	学習すべき内容について細かく指導する。また、隙間の時間を有効に活用させる。	C	休日の学習時間はある程度確保されているが、平日における時間がとれていない。クラブ等の時間との兼ね合いにおいて、もっと有効に時間を過ごす方策を考えさせたい。	通学の時間を含め、隙間の時間の有効利用を考えさせる。	郡高の魅力は、すばらしい教育環境とバランスのとれた生徒がたくさんいるということである。文武両道で頑張っている郡高生の姿は、従前どおり地元中学生のあこがれである一方、文武の間で悩んでいる生徒が多いと感じられるのが現状である。 1. 2年では日常の家庭学習時間の確保、3年では受験勉強へのスムーズな移行等、文武両道の「文」の指導の充実につとめてほしい。
	生活指導 不注意による遅刻が月2回以上の生徒を3名以下にする。	8時20分着席の持つ意味を考えさせ、安易に遅刻をさせない環境作りをする。	A	不注意の遅刻者は3名以内なので評価はAとなる。ただし、連絡のある遅刻は学期を経るにつれ増えてきているので、遅刻自体を減らすことが必要である。	20分着席が形骸化されないように、生徒に対して啓発を粘り強く行う。	
	進路指導 将来の進路の方向性を確定させる。	HR活動、面談、進路集会などを通じて、様々な情報を提供し意識を高めさせる。	A	進路希望調査において、方向性が決まっていると答えた生徒が100%だったので評価はAとなる。	具体的な目標については進路のHR等を通じて確認させていく必要がある。	
2 学 年	学習指導 学校での授業以外で1日平均2時間以上の学習時間を確保させる。	部活動との両立を達成させるため、時間の有効利用や計画的な学習時間の設定等についての意識を高めさせる。	C	11月と1月の2度学習時間調査を行い、1日平均2時間以上の学習時間を確保した生徒の割合は、11月が約42%、1月が約27%であった。特に文系クラスの低下が目立った。	11月の実施時期は期末考査に間近のため、普段の実態は1月の数値に近いと思われる。3学年へ向けて、学習はもちろん、すべての学校生活に意欲的に取り組む姿勢を求めたい。	
	生活指導 不注意による月2回以上の遅刻者を2名以内にする。	HRや集会、面談等を通じて健康管理・自己管理についての意識を高め、自己を律する力を身につけさせる。	B	不注意による月2回以上の遅刻者は2学期に8名と激増し、3学期現在もすでに3名(のべ12回)を数える。また特定の生徒に集中する傾向もみられてきた。	自己管理についての意識を高めさせるよう粘り強く指導を継続するとともに、20分着席のいっそうの徹底を図りたい。	
	進路指導 具体的な進路目標を確立させる。	進路HRや進路講演会、オープンキャンパス等を通して、具体的な進路目標についての意識を高めさせる。	A	2月初めに調査を行ったところ、具体的な進路目標が決定していると答えた生徒の割合が88%以上にのぼった。未定と答えた者は計49名。調査日の欠席者は計19名。	各自の進路目標の実現のために今何をなすべきかを考えさせるとともに、未定者に対しては将来の目標をできるだけ早く持たせ、学習意欲を高めさせたい。	
3 学 年	学習指導 早い時期に進路目標を決定させて学習に取り組ませる。	面談やHR、集会などを通じていち早く進路目標を決定させ、その実現に向けて部活動と学習の両立に努めさせる。	A	2年生11月の調査では平日の学習時間は平均88分、3年生1学期末の調査では、平日の学習時間は平均185分で、97分増加した。部活動引退後、学習時間は大幅に増加したが、1・2年時および部活動引退までの意識付けが大切である。	3年当初に自己の進路目標を確定させ、家庭学習の重要性を確認させる。	
	生活指導 基本的な生活習慣を確立させる。	8時20分着席を徹底させ、不注意による遅刻者を防ぐ。	B	不注意による遅刻が月2回以上の生徒が、のべ26名であった。1・2年時に比べて遅刻者が大幅に増加した。また、特定の生徒が、8時20分着席を守れなかった。	8時20分着席の意義を理解させ、不注意による遅刻が多い生徒を粘り強く指導していく。	
	進路指導 自己の進路実現に向けて努力をさせる。	生徒たちに進路実現に向けて様々な情報を提供し、環境を整え、それに基づいて最大限の努力をさせる。	A	年度末のアンケートの結果、「精一杯取り組めた」「ほぼ取り組めた」という生徒の割合が81%であった。ほとんどの生徒が目標に向かって、よく頑張ったと思われる。	よく努力しているが、結果が伴っていない生徒も多い。1・2年時における学習内容を定着させることが重要である。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	年度末(3月)			
			自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
事務	電気使用量を削減する。	職員の健康管理に配慮しながら、使用料金の削減を目指し、発電量の減少や環境配慮の観点からも、電気使用量の削減に取り組む。	D	<p>電気使用量(4~1月)</p> <p>H24年度 345,778Kwh H25年度 361,632Kwh</p> <p>昨年度を4.6%上回る結果となった。 今夏の猛暑による熱中症等健康面への配慮、ストーブ導入前の激寒時への対応による空調使用が大きく影響したと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒等の健康管理を優先しながらも、こまめな節減を習慣づけるようにする。 非常に少ない予算中であるが、電気関係器具更新の際には、電気効率のよいものを検討する。 	学校の取組と自己評価に同意する。今後も取組のさらなる充実を期待したい。